

令和3年度 第3回千代田区図書館評議会 議事要旨

【日時等】

- 〈実施日〉 令和4年2月2日（水） 14：00～15：05
〈場 所〉 千代田区役所 4階 402・403 会議室
〈出席者〉 ◦ 評議会委員（6名）
野口 武悟（会長） 鵜田 拓哉（副会長）
丸山 郁太郎 木原 一雄
福山 伸隆 北島 敦子
◦ 事務局
千代田区文化振興課長 大塚 立志 他3名
〈欠席者〉 ◦ 評議会委員（2名）
高山 剛一 塚田 恭平

【資料】

—当日配付資料—

- 1 令和3年度 第3回千代田区図書館評議会議事次第

—事前配付資料—

- 2 資料1 令和3年度の評価方法について（案）
- 3 資料2 令和3年度図書館評価シート（案）
- 4 資料3（参考）令和元年度・2年度評価シート
- 5 資料4 図書館運営状況 令和2・3年度比較図表

【次第】

- 1 開会
文化振興課長挨拶
- 2 議題
令和3年度千代田区立図書館運営の評価について
- 3 連絡事項
次回日程

【議事経過】

1 開会

＜文化振興課長 挨拶＞

文化振興課長より、挨拶を行った。

2 議題

＜令和3年度千代田区立図書館運営の評価について＞

会 長： 資料1「令和3年度の評価方法について（案）」をご覧いただきたい。

まず資料1の評価の視点を検討していく。

令和元年度は、①実績評価、②指定管理者による自己評価、③評議会委員の評価の3つの視点から評価を行った。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響から、①実績評価を行うことが困難であるため、②指定管理者による自己評価と③評議会委員の評価の2つの視点から評価を行ってきた。

ここで資料4「図書館運営状況令和2・3年度比較図表」ご覧いただきたい。同じコロナ禍の状況とは言いつつも、令和2年度と3年度を比べてみても、開館状況・閲覧席座席数など単純には比較できない、なおかつ流動的な状況が継続しているということが確認できる。

コロナの収束が見通せない状況が続いている中で、令和元年度のような従来の図書館運営に戻すことができなかったということから、令和3年度も令和2年度と同様に、②指定管理者による自己評価と、③評議会委員の評価の2つの視点で評価をしてはどうか。

委 員： 実績評価を行わないとは、具体的にどういう項目を評価しないということか。

会 長： 評価シートに実績は入れているが、資料4から分かるように状況がまったく違うので単純に前年度と比較はできない。少なかつたからと言って図書館側が努力していない訳でもない。こういったところで数値的な評価・分析がしづらいということである。

文化振興課長： 令和2年度と3年度は、残念ながら利用制限を加えて運営せざるを得ない状況であったが、同じコロナ禍の対応でも時期によって違いがあり、その中で評議会委員の皆様としても数値での比較は、できる部分もあれば、ほとんど難しい評価もある。とのご意見をいただいた。

委 員： コロナ禍により、例えば貸出冊数は当然減るのは分かるが、フェイスブックやツイッターをはじめとした情報発信など増えている項目は評価しないといけない。

会 長： 資料2の令和3年度図書館評価シート（案）には、参考値として2年度の実績値を入れている。評価の視点③の評議会委員による評価の中で、実績が増加した項目を拾い上げて評価していただきたい。

委 員： 令和2年度と3年度の項目は同じ方がよい。2年度からコロナ禍になってきているので単純に対比しやすいと思う。

委 員： 実績値での評価はなかなか難しいが、実績値はデータとして残して、参考にするかしないかは項目によって異なると思う。対前年度比の項目を元年度比と2年度比という形で見えていく必要がある。項目によって見方を分けるべきである。

- 会 長： たとえばコロナ以前と比べて電子図書館サービスなどはプラスになっている。そのような項目を拾い上げる方法にしていく必要がある。
- 委 員： 3年度の評価シートに元年度の実績値を追加することもできるのか。
- 文化振興課長： 資料2・3はホチキス留めで資料3には元年度と2年度の評価を添付した。資料2の3年度評価シート（案）に元年度の実績値も入れることは検討したい。
- 会 長： ご指摘の視点は次回か次々回の評議会で委員評価する際の注目点として検討することも考えたい。
- 文化振興課長： 3年度評価シート（案）を固めたうえで、委員評価の際にフィードバックさせていただく。
- 会 長： 評価シートの数字が小さくなりすぎると見づらいこともあるので、口頭で説明する部分があってもよい。
- 委 員： 一つの基準として元年度を基準に、2年度、3年度の数字があれば比較しやすい。
- 会 長： 皆様の意見を踏まえながら来年度に評価作業を進めていく。
改めて「評価の視点」に関しては、昨年同様②指定管理者による自己評価と、③評議会委員の評価の2つの視点でよいか。
- 委 員： （異議なし）
- 会 長： 続いて、資料1の「評価の流れ」「評価の基準」について、すでにご意見をいただいているが、こちらも昨年度から変更なしでよいか。
- 委 員： （異議なし）
- 会 長： 続いて、資料2の令和3年度図書館評価シート（案）の指標について、コンセプトごとに確認していく。
まず、①「千代田ゲートウェイ」の指標について追加項目などいかがか。
- 委 員： 前年度との比較はできないが、千代田図書館のホームページ（トップページ）へのアクセス数を入れた方がよい。フェイスブック・ツイッターの情報発信回数やブログは項目としてあるが、ホームページ自体がない。
- 文化振興課長： アクセス数は指定管理者との定例会議でも示されている。カウントの仕方等は事務局で整理する。
- 会 長： 今回指標に追加しても、2年度実績も入れられる可能性はあるか。
- 文化振興課長： 可能性はある。
- 委 員： コロナ禍で新たに展開した項目はないということでよいか。
- 文化振興課長： 昨年度この評議会でも各コンセプトに新しい指標・視点を加えている。資料3には2年度の評価シートに赤字で新規指標として反映している。
- 会 長： この評価指標はいらぬという項目があれば、新規の追加とともにご指摘ください。4番のオリ・パラ関連は令和3年度までになるのか。
- 文化振興課長： オリ・パラ関連は3年度までは残るべき指標である。
- 委 員： ちよびたブログの更新回数は、ちよびたブログのアクセス回数と似たような項目なので、どちらかがあれば評価できるのではないか。
- 会 長： どちらを見た方が効果的か。
- 委 員： 更新回数の方が具体的ではあるので、更新回数である。
- 委 員： 更新といってもコンテンツを更新すれば更新回数に入るのか。誤字・脱字を訂

正しても更新回数に入るのか。

会長： ブログなので、新規の記事を投稿したのもあれば、修正したというものもありそうである。

委員： 更新回数というよりも、ブログの公開回数が妥当である。

委員： 令和2年度の評価シートを見ると、更新回数は4回減ったが、対前年度比は93.3%、アクセス回数はもっと減って81.1%である。指標としてはアクセス回数ではないか。

会長： ホームページのアクセス回数を追加するのであれば、合わせてブログもアクセス回数で統一した方がよいという考え方もある。そこは事務局で検討していただき、改めて皆様には提案する。

それでは、評価項目②「ビジネスを発想するセカンドオフィス」の指標の見直しはいかがか。

委員： 利用者アンケートはどういう方法で取っているのか。

文化振興課長： アンケートは各館ごとに、利用者に記入していただいている。それぞれの図書館で基本的な共通の項目と、館の特性を考慮したアンケート項目を合わせて調査している。アンケート手法は紙ベースである。

会長： ウェブアンケートやウェブ図書館の利用に合わせて回答ができる方式もある。

委員： 区立図書館ホームページのマイページからはできないか。

事務局： 基本的には今のシステムではできないのが現状である。

委員： そういう体制も千代田区で整備が必要になってくると思う。

会長： コロナ禍で利用制限が加わると、紙ベースではアンケートの回答者自体も少なくなり影響も出てしまう。

続いて、評価項目③「区民の書斎」の指標の見直しはいかがか。

副会長： 評価項目の③だけではなく、「〇〇満足度」の項目と、「〇〇満足度平均」の項目がある。何か意図・理由はあるか。

事務局： 満足度の項目は利用者アンケートの結果を抜粋したもので、満足度平均の項目は講座やカレッジごとに年間で取ったアンケートの平均である。

会長： 表記の違いは出どころが違うということ。どういう対象で取ったアンケートに基づく情報か、注釈があれば評価の際の参考になるかもしれない。

文化振興課長： 注釈については事務局でも検討する。

副会長： 利用者アンケートの満足度の回答項目は何か。

事務局： アンケートの回答項目は、満足・ほぼ満足・やや不満・不満の4項目である。満足度の割合は、満足・ほぼ満足の合計である。

委員： 話が戻ってしまうが、評価基準の項目では「目標を達成した」などの表現になっている。今の議論では実績を前年度と比較してどうかという話に終始している。目標とは一体何か。たとえばウェブ関係は毎年伸びている。前年度と比較してもあまり意味がない。目標を設定して、それに対して実績を評価しないといけない。そこが置き去りにされているような気がする。

会長： 元年度の評価シートは計画値、つまり目標値と実績値との比較になっている。目標が出ていない場合は前年度実績と比較して評価するという前提に立っていたが、コロナ禍になり評価しにくくなってしまった。

文化振興課長： 元年度は計画値がある前提でやってきた。しかし2年度からコロナ禍になり、さらに3年度の評価になると、評価基準の表現に齟齬が出ていると感じる。

会長： 実績評価の際の評価基準としては良かったが、表現を見直していく必要があるかもしれない。どういう表現にするか重要なことなので、事務局と会長・副会長に一任していただきたい。

委員： 目標値との比較がよい項目は全項目ではないが、いくつかは目標値を想定して比較する必要がある。

会長： 千代田Web図書館は、購入した電子書籍の提供がメインか。現状でオリジナルコンテンツ、いわゆるデジタルアーカイブしたコンテンツは掲載しているか。

事務局： デジタルアーカイブは別のシステムで、自由に閲覧できるシステムである。

会長： どこかにその閲覧数やアクセス数は載っているか。

事務局： デジタルアーカイブの閲覧数についてはシステム会社に確認する。
※確認の結果、デジタルアーカイブの閲覧数は算出できないことが判明した。

会長： もしデータが取れるのであれば、デジタルアーカイブの項目も追加してもよい。続いて、④評価項目「クリエイトする書庫」の指標の見直しはいかがか。

委員： (特になし)

会長： アンケートでは満足度を取っているが、評価シートの指標には入っていない項目はあるか。

事務局： ほぼ落とし込まれている。

会長： ありがとうございます。

副会長： 特別研究室のモーニングセミナーでは参加者にアンケートを取っていないか。

事務局： 評価シートでは開催回数のみを指標としている。

文化振興課長： モーニングセミナーでアンケートを取っているか否か、今確認が取れないことなので、事務局で確認する。
※確認の結果、参加者がほぼ固定化していることから、初めて参加された方のみアンケートを実施していたが、コロナ禍になりコンスタントな開催ができていない状況のため、アンケートも実施していない状況である。

会長： 続いて、⑤評価項目「ファミリーフィールド」の指標の見直しはいかがか。

委員： 4番の子ども読書調査は千代田区で実施している子ども読書調査か。

事務局： 千代田区読書振興センターが11月に区内小中学校を対象に、無作為で抽出したクラスに調査している。

委員： 都全体でも実施している調査か。調査回収時に区と都全体との比較も行うとわかりやすい。

事務局： 若干異なる項目があるので、比較が難しい。

委員： 不読率は分かるか。

事務局： 都の調査にも不読率の項目があれば、合わせて区と比較検討しやすいということか。

会長： 東京都や全国学校図書館協議会が毎年実施している調査があるので、評価する時の参考になるかもしれない。全国から見れば不読率は、千代田区は低い。そのようなことを評価で触れることは重要かもしれない。

文化振興課長： それらの調査に関して、事務局で資料として出せるよう検討する。

会 長： 5番の支援先は主に学校図書館や保育園などを示しているのか。
事 務 局： 学校・保育園のほか、幼稚園、こども園、児童館である。
会 長： 続いて、評価項目⑥「管理運営等」の指標の見直しはいかがか。
委 員： (特になし)
会 長： 本日欠席の高山委員、塚田委員から指標に関して意見は届いているか。
文化振興課長： 事前にはありません。
会 長： それでは評価指標について、もう一度見直して何かお気づきの点があれば一週間ぐらいをめどに事務局までメールで連絡してください。
令和3年度の評価基準、評価シートについては、改めて事務局で修正したうえで、最終的には会長・副会長に一任していただき、まとめたものを皆様に提示する。

3 連絡事項

文化振興課長： 次回、令和4年度第1回の図書館評議会は、来年度7月の開催を予定している。詳細については事務局より追って連絡する。

以上で令和3年度第3回千代田区図書館評議会を閉会とする。